

徳大卒業生 就職活動体験記

名前：アスワド ロジン

出身：マレーシア

学歴：徳島大学理工学部電気電子システム専攻

(2026年度 卒業・修了予定)

会社：セリオ株式会社 (岡山県)

仕事内容：システムエンジニア (SE)



(1) 私が日本企業に就職しようと思ったきっかけは？：

最初は、日本での学生生活を経験して、卒業後は母国に帰るつもりでした。しかし、日本で約4年間生活するうちに、日本の「働く姿勢」や「仕事に対する価値観」に魅力を感じるようになりました。母国とは良い意味で大きく異なっており、その考え方を学び、自分の成長につなげたいと思うようになりました。そのため、日本で働くという次のステップを決意し、日本での就職活動を始めました。日本での就職活動は母国とは全く異なる独特な経験であり、大変でしたが、とてもやりがいがありました。今回、セリオ株式会社にソフトウェアエンジニアとして内定をいただくことができ、これをキャリアの新たな成長の第一歩したいと思います。

(2) 就活で苦労したこと&成功したポイント：

前述のとおり、日本の就職活動は私の母国とは大きく異なります。就職活動が卒業の約2年前から始まり、多くの企業が新卒採用を特定の時期にのみ行うという点には特に驚きました。そのため、就職活動では「時期」と「計画性」が非常に重要であり、学業との両立にも苦労しました。

また、同じ時期に就職活動をしている何千人もの日本人学生たちとの競争も避けられませんでした。自分のスキルには自信がありましたが、外国人として文化や考え方の違いによる不利を感じることもありました。春休みのほとんどをポートフォリオ制作に費やしましたが、最初はお祈りメール（不採用通知）が続き、落ち込む時期もありました。日本での就職を諦めて母国に帰ろうかと思った時期もありましたが、国際課の皆さんのサポートに救われました。企業見学の企画や、面接対策セミナーなどの支援を通じて、多くの貴重な情報や経験を得ることができました。そのおかげで、日本の就職活動の流れや、企業に良い印象を残すための面接技術を身につけることができました。

(3) これからの就活に向けたアドバイス：

大学生のうちは「自由」という特権がありますが、その自由さに甘えていると、あっという間に時間が過ぎ、就職活動の準備のタイミングを逃してしまうこともあります。就職活動を成功させるためには、常に2~3歩先を見据えて計画を立てることが大切です。行きたい企業の募集要項や求める人物像をよく調べ、できるだけ早い段階から準備を始めましょう。準備ができたら、キャリア支援室などのサポートを活用して、面接練習を何度も行うことをおすすめします。完璧でなくても、練習してきたことを自信をもって伝えることで、何も言えずに黙ってしまうよりもずっと良い印象を与られます。

特に留学生にとっては、日本語が最大の壁かもしれません。しかし、たとえ少し不自然な日本語でも、自分の気持ちを熱意をもって伝えられれば、きっと面接官の心に届くと思います。皆さんの健闘を祈っています！